

(1) 校内研修方法の事例

①事例をもとにしたグループ討議による研修

《飲酒運転事例》

A教諭は、市内の飲食店で午後7時から学校の同僚と飲食する約束をしていた。自宅から徒歩20分程度の場所だったので歩いて行く予定であったが、仕事の都合で帰宅が既に午後7時になり、自分の車で出かけた。

A教諭は、午後9時頃までの間、ビールを4～5杯と日本酒、焼酎を少し飲んだ。その後日頃から仲の良い三人で別の店へ行き、11時頃まで飲食しながら話をした。その間、A教諭はビールを3～4杯、カクテル2～3杯を飲んだ。

A教諭は久しぶりのお酒と仕事での疲れのせいか、カウンターで寝てしまった。午前0時頃、同僚の二人に「代行を呼ぶよ」と起こされたが、「今、代行は混んでいるから、もう少し寝てから自分で呼ぶよ。」と言い、同僚を帰した。その後、同僚の二人はタクシーを頼んで帰った。深夜2時、閉店の時間になり、店の人から「お車を呼びますか？」と聞かれたが、家が近いから歩いて帰ると車の置いてある駐車場に向かい、車の中で2時間ほど寝てしまった。

午前4時頃、寒さで目がさめ、あわてて自宅へ戻ろうと車を運転し、駐車場を出てもなく、蛇行運転している所を警邏中のパトカーに停車を命じられ、呼気検査等を受け飲酒運転で検挙された。

- 1 飲酒運転は、道路交通法で禁止され、その危険性と当該運転による事故の悲惨さが従前から叫ばれているにもかかわらず、行ってしまうというのは、「どのような考え方や心理状態から生まれるのか」をメインテーマとしてグループでの討議を行う。

<期待される効果>

悪い結果を予想しながらも、なお、その行為に及んでしまう人間の弱さについて、認識を深められる。

- 2 飲酒運転を「しない」「させない」ために、職場及び教職員は日頃からどのようなことをすべきであるか、あるいはできるのか考え発表する。

- 3 飲酒運転に限らず車を運転するに当たっては、交通ルールを遵守することは当然のことであるが、「人にやさしい安全運転」を実践していく上で何が必要か、また安全運転の基本は何かについて、まとめる。